

令和2年度第1回景観審議会デザイン協議部会 会議要旨

1. 審議会（部会）の日時、場所、出席者、議事

(1) 開催日時 令和2年（2020年）7月14日（火） 午後3時00分～同4時00分

(2) 開催場所 宝塚市立男女共同参画センター 学習交流室1A、1B

(3) 出席者

・景観審議会デザイン協議部会委員

岩井委員、中嶋委員、徳尾野委員、三谷委員、赤澤委員、山根委員、
前田委員、野村委員、張間委員

・事務局（都市整備部 都市整備室 都市計画課）

尾崎部長、福田室長、谷口課長、下山係長、武田職員

・事業者

議事① 事業者 学校法人雲雀丘学園

設計者 株式会社 安井建築設計事務所

(4) 議 事

議事① 雲雀丘学園 新文化館（仮称）新築工事

(5) 傍聴者

議事① 0名

2. 会議の要旨

事務局： 景観審議会運営規程第3条第1項の規定に基づき、本日の議事は全て公開
となっています。傍聴者があれば入室を承認しますが、傍聴者はいらっしゃ
いません。

本日は景観審議会に引き続きの開催となっておりますので、山根委員、
市民委員の野村委員、張間委員、3名にご出席いただいています。

「宝塚市景観審議会デザイン協議部会の設置及び運営に関する規定」第
3条第1項において、デザイン協議部会は委員のうち会長が指名する、知
識経験者6名と公募による市民委員1名をもって組織することとなっ
ていますが、同条第2項において、「会長がその所掌事務を遂行するため必
要があると認める時は、他の審議会委員に協力を依頼することができる。」
と規定されております。

本日は、この規定により山根委員と2名の市民委員にご出席していただくということでよろしいですか。

会 長： はい。本日は山根委員と2名の市民委員に出席をお願いします。

事務局： 本日の審議会（部会）は、委員7名の出席がありましたので、宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定により成立する旨を報告します。

会 長： 了解しました。審議を開始します。本日の署名委員は順番により、三谷委員と赤澤委員です。

☆★☆☆ 雲雀丘学園 新文化館（仮称）新築工事 ★☆☆☆

会 長： 今回の事業計画で景観上特に配慮された部分について説明してください。

設計者： 3ページの航空写真をご覧ください。

雲雀丘の校舎は白を基調としたモダニズム建築です。真ん中の建物が、今回建て替え計画建物になります。

今回建て替える建物についても既存と調和するよう白色を基調とした建物で計画します。

景観についても、既存建物の位置とほぼ同じ位置とし、既存建物のアウトラインに沿って計画します。樹木は、学園内の既存樹木は伐採せず、保存する計画です。

配慮した点は、以上となります。

会 長： 委員の皆様、質問等お願いします。

いかがでしょうか。

委 員： 外郭は既存建物に合わせる計画とされている、また高さについては、周辺の建物と既存とボリュームを合わせる形としており、計画自体に問題はないと思います。

ただ、少し教えてほしい点があります。生徒の動線はどのようになっていますか。また、計画建物と阪急電車で挟まれた空間の床仕上げ等の計画、建物への寄り付きの計画はどのようになるのでしょうか。図面には記載されていないようですので、建物周囲の外構計画が読み取れません。

それから、先ほど既存樹木は伐採しないとおっしゃっていましたが、27ページのNo. 284の樹木が計画図面では無くなっています。

設計者： 6 ページの配置図で説明しますと、生徒の動線は、東門がメインのアプローチとなります。門から小学校特別教室棟までの床仕上げはインターロッキングです。その先から今回計画建物にかけてはアスファルト舗装です。

建物周囲の床仕上げは、今回工事範囲外となりますので、既存のままとなり、アスファルト舗装となります。長期的な視点では今後インターロッキング等の舗装を検討しています。樹木について、No. 284 の樹木については、計画建物に近接していますので伐採します。そのほかの樹木については残します。

会長： キャンパスのマスタープランはあるのでしょうか。

事業者： 全体のマスタープランはありません。ただ、東側は小学校棟、西側は高校棟、と大きくゾーニングはしています。

今回の建物は、創立 70 周年を記念して計画したもので、小学校棟、中学高校棟両方からの利用ができるよう敷地中央に配置しています。

委員： 計画建物には、生徒はどこから出入りされるのでしょうか。渡り廊下がメインなのでしょうか。

設計者： 小学校棟側からの既存建物の利用状況としては、渡り廊下からの利用を行っています。

計画建物のアプローチは、未定の状態ですが、渡り廊下から、又は地上からの出入りのどちらか又はその両方となる予定です。

地上からのアプローチを採用する場合は、小学校棟側の渡り廊下は取り止めとなります。

中学高校棟側からの出入りは、高校校舎等と、計画建物の方に谷地がありますので、渡り廊下を通す計画となります。

委員： 渡り廊下の意匠について、パースと、図面とでそれぞれ異なっていますが、建物と比較して格落ちという印象を受けます。

敷地周囲から見えるものではないですが、架構の形状、渡り廊下の下を通る際の桁の見え方、屋根等もう少しやさしいデザインとなるよう配慮すべきではないでしょうか。やさしいというのは、人の体にやさしい、目にやさしい、という意味合いです。

委員： 渡り廊下を取り止めて、その分余力があるのであれば、外構に力を入れる方向で進めた方がよいと思います。

委員： 雨天時の利便性を考慮すると、渡り廊下が良いという側面もあるかと思いますが、意匠について充分配慮をお願いします。

設計者： パースの渡り廊下は、既存利用を計画していた際のものです。新設する場合は充分考慮します。

委員： 建物北側の空間は現在駐車場として利用されていますが、今後は広場として利用されるのでしょうか。

事業者： はい、広場としての利用を検討しています。

委員： 図面を見ると、この広場はいい雰囲気ですので、大事にしていきたい空間です。

委員： 敷地内の植栽について、全体として、敷地内は植栽が多く鬱蒼としている印象です。学校建設当初は、早く生育するよう早期緑化木を多く採用しています。マツ、ヒマラヤ杉、ナンキンハゼ等が多く、ヒマラヤ杉は、この辺りでは宅地開発の際に植樹されていたのですが、とても大きくなる品種ですので、現在では住宅地ではほとんど残っていません。そのヒマラヤ杉が雲雀丘学園では残されており、地域の歴史が感じられる樹種ですので、保全していただきたい樹木です。

一方でナンキンハゼは環境省の外来種、兵庫県のブラックリストにも掲載されている品種です。ですから、管理上樹木の伐採を行う場合は、ナンキンハゼから行ってください。

計画敷地近くを見ると、西側に豊かな植栽がありますが、一番大きな木がナンキンハゼです。このナンキンハゼを切るのはためられるかもしれませんが、切ると、その分他の樹木がより生育します。

古いからこそ風格も感じられ、鬱蒼とした雰囲気も良いのですが、建物西側の大きなナンキンハゼは伐採することをお勧めします。

計画建物の北東にある花壇にも、ナンキンハゼとサクラが植樹されています。計画建物周囲を広場として計画されるのであれば、ナンキンハゼを切って、この花壇の位置に、木の下で人が憩えるような大きな木を植えると、その広場の顔として非常に印象的な空間になると思います。樹種でいうと、サクラに似たケヤキや、コブシ等は木の下空間を有効に使えます。椅子等を置いてコミュニケーションが生まれる空間にすることもできます。

委員： 西側の植栽は、ナンキンハゼを切ったとしても他の樹木は豊かな緑として残してほしいです。

事業者： 高校校舎を建て替える際、ヒマラヤ杉が近くにあったのですが、伐採するか検討した際、理事長の意向で移植を行い、残しています。

その他にもメタセコイア等、大きな木は残していきたいと思っています。

委員： これからヒマラヤ杉を植えようと思っても植えられません。大きな木については大事に残していただくとよいと思います。

会長： 屋上について、今回の計画地は丘陵地ですので、見下ろし景観への配慮が重要です。設備機器の周囲には目隠しフェンスをされる計画のようですが、屋上の仕上げは、露出防水でしょうか。

設計者： はい、色はグレー系を検討しています。断熱露出防水です。室外機に関しては、建物のモジュールに則り整然と並べるよう計画しています。目隠しルーバーについては、今後取り止めになる可能性があります。

委員： 設備機器がむき出しになるということでしょうか。

設計者： はい、ただ、可能な限り見苦しくないよう設備機器を並べるよう配慮します。

委員： 極力ルーバーは設置すべきと考えます。

会長： 屋上緑化は、検討されていないのでしょうか。

事業者： 高校校舎の屋上で以前緑化を試みた経緯があります。しかし、山から吹き下ろす風、日当たりの問題でうまく生育させることができませんでした。

そのため今回の建物は、高校校舎の経験から、屋上緑化は検討していません。

委員： 腰壁部分の色は木目型枠仕上げとなるのでしょうか。

設計者： はい。ただ、今後の設計や現場の状況等を鑑み最終決定する予定です。

委員： コンクリート打ち放しの仕上げは、他の校舎でも見られるのでしょうか。

設計者： 部分的に使っている建物は他にもあります。緑豊かな敷地ですので、木目を生かして、生徒が親しみを持てるような建物にしたいと考えています。

委員： 学園全体では、設計は統一されていると思いますが、全体のマスタープランを新たに作成し、建物や、樹木等について決めておくと、代替わりがあったとしても今後の維持管理に役立てることができます。また、新しい計画をされる場合でも、基本の考え方に沿って進めることができます。

さらに、こういった審議会等でも、すでにマスタープランを定めているのであれば、そのマスタープランに沿って計画しているかの確認ができるため、スムーズに審議を行うことができます。是非検討してください。

委員： 兵庫県では、県民まちなみ緑化事業を行っています。ぜひ活用の検討をお願いします。

委員： 腰壁の打ち放しの色について、白を基調とした建物に対して目立つようなことはないという理解でよいでしょうか。

設計者： はい。目立つようなことはありません。

委員： 外壁に設置する雲雀のマークについて、今まで使用しているマークと同じものなのでしょうか。

事業者： 建物に掲出するのは、今回が初めてです。

このマークは、創立 50 周年の際に作製した記念ウイスキーのラベルにあしらわれたものと同じマークです。

委員： 電車からは見えるでしょうか。

設計者： 電車からは樹木が目隠しとなり見えません。

委員： サインの設置方法を教えてください。

設計者： 材質は、ステンレスの焼き付け塗装を足で持ち出します。

委員： 心配なのは、これだけ白い壁ですので、雨だれの汚れが気になります。

設置すること自体は反対ではないですが、周りに木も多いので、汚れについては充分配慮していただきたいです。

設計者： 充分検討します。

委員： それから、サインの退色についても気になります。
鮮やかな色を計画されていますので、色飛びしやすいと思います。

設計者： できる限り配慮します。ありがとうございます。

委員： 雲雀丘学園の敷地全体については、非常に緑豊かで、いいイメージを持ちました。
ただ、計画建物周囲の既存建物の屋上が緑色になっているのはいい雰囲気ではないと思います。

雲雀丘といえば、宝塚に住んでいる市民としては誇りを感じる存在です。ぜひ学園全体がいい雰囲気になるように見下ろし景観についても配慮いただきたいです。

委員： 雲雀丘学園の周辺はよく通りますが、緑に囲まれ、とてもいい教育環境だと思います。広場の計画については、子供たちが座ってコミュニケーションが取れるような空間にしていきたいです。

会長： それでは、基本的な計画は問題ありませんが、今回の意見について配慮していただき、市民の誇りという意見もありましたので、充分検討をお願いいたします。ありがとうございました。

設計者： ありがとうございました。

会長： 本日の協議はこれで終了とします。